

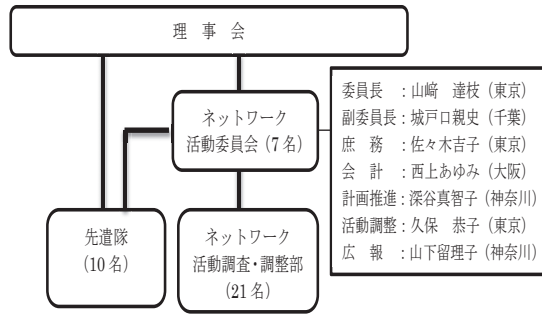
被災地での支援・調査活動の紹介

日本災害看護学会 ネットワーク担当理事
山崎 達枝

はじめに

- 本学会では、大規模な災害が発生した場合、災害時における地域の人々の健康・継続した看護支援を重要な課題にあげ、発生直後に先遣隊、数ヶ月後に**初動調査**、継続調査を実施している。
 - 大阪北部地震
 - 平成30年7月豪雨災害被災地、広島・岡山・愛媛県の3県
 - 北海道 北部地震
- 上記被災地に先遣隊・初動調査を実施した。

一般社団法人 日本災害看護学会 ネットワーク活動委員会



ネットワーク活動、調査・調整部 活動の定義
予め月当番を決め、国内災害を対象に常時モニタリングを行い、一定基準を超えた災害に対し初期調査、**初動調査**、継続調査を行っている。

調査種類	内容
初期調査	初期調査とは、被災地に配慮した適切な方法(電話・インターネットなど)で、被災地の組織会員や個人会員等のネットワークを活用し、被害状況の確認、ケアニーズ等の把握を行うことを目的とする。
初動調査	初動調査とは、直接、被災地に赴き調査を行う方法を用い、直接的に被害状況の確認、ケアニーズ等の把握を目的とする。
継続調査	継続調査とは、初動調査および先遣隊活動で、長期的な被害が予想された場合、適切な時期に、直接被災地に赴き調査を行う方法を用い、直接的に被害状況の確認、災害に関する中長期的な対応や課題等の把握を目的とする。

ネットワーク活動・調査調整部活動の基準

地震	震度5以上(震度6強以上は初動調査の必要性を検討する)
水害	避難警報が出て、避難所が開設された場合
竜巻	F2(藤田スケール)以上の竜巻(F3以上は初動調査の必要性を検討する)
人為災害	負傷者が15~20名以上
その他	土砂災害、噴火、雪害、高潮・津波、副振動 etc.

初動調査活動実施 大阪府北部地震

- 概要:6月18日7時58分に大阪府北部でM6.1の地震が発生した。各地の震度は、最大震度6弱が大阪府大阪市北区、高槻市、枚方市、茨木市、箕面市の5市区
- 調査時期:平成30年9月4日(火)・11日(火)
- 調査場所:茨木市、吹田市
- 調査方法:聞き取り調査 調査実施者:3名
- 調査目標:継続した保健医療活動とケアニーズについて実態調査し、今後の被災者と被災地の保健・医療・福祉従事者への支援の構築や連携、災害への備えに関する示唆を得る。

平成30年7月豪雨災害

- 気象の概況:6月28日から7月8日にかけて台風7号及び梅雨前線等の影響による集中豪雨で総降水量は、四国地方で1800ミリ、東海地方で1200ミリを超えるなど、7月の月降水量平年値の2から4倍の降水量を記録した。また、7月7日には大雨特別警報が1府10県に出され、九州北部、四国、中国地方、近畿、東海、北海道と多くの地点で24時間降水量の値が観測史上1位を記録するなどこれまでの観測記録を更新する大雨となった。

平成30年7月豪雨災害



初動調査活動実施 平成30年7月豪雨災害:広島県

- 被害状況:死者108名、家屋損壊2,050棟(全・半壊)
- 調査時期:9月13日(木)~14日(金)
- 調査場所:広島県看護協会、済生会呉病院 広島県健康福祉局 他2カ所
- 調査方法:聞き取り調査 調査実施者:3名
- 調査目的:①医療機関における医療従事者の具体的な活動 ②入院中の患者の対応として、重傷者への対応と、日ごろの準備状況、今回の災害を経験して得られた今後の課題など

初動調査活動実施 平成30年7月豪雨災害:岡山県

- 被害状況:死者61名、家屋損壊3,862棟(全壊・半壊)
- 調査時期:9月17日(月)~9月19日(水)
- 調査場所:岡山県看護協会、倉敷保健所、総社市役所、矢掛町役場 他3カ所
- 調査方法:聞き取り調査 調査実施者:3名
- 調査目標:①住民の保健医療や生活支援として実施されたこと(受けられた内外からの支援も含む)、その成果と課題 ②現存する課題と支援ニーズ、検討中もしくは検討予定の取り組みなど

初動調査活動実施 平成30年7月豪雨災害:愛媛県

- 被害状況:死者26名、家屋損壊773棟(全壊・半壊)
- 調査時期:11月19日(月)~20日(火)
- 調査場所:愛媛県看護協会、医療法人 恕風会 大洲記念病院、西予市役所
- 調査方法:聞き取り調査 調査実施者:2名
- 調査目標:①発災から発災後3か月の間での住民の健康問題と、医療従事者の活動について ②医療機関に受診する被災者の状況、限られた資器材での活動の困難な点、これまでの準備状況、今後の課題についてなど

初動調査活動実施 北海道胆振東部地震

- 調査時期:12月3日(月)~4日(火)
- 調査場所:北海道看護協会、札幌医科大学付属病院、札幌南徳洲会病院、他2カ所
- 調査方法:聞き取り調査 調査実施者:2名
- 調査目標:①大規模停電時の保健医療機関としての初動対応について ②大規模停電時の他保険医療機関との連携について

結果

- 7月11・12日、看護協会より先遣隊2名で避難所4カ所を巡回しニーズ調査を実施、3カ所に支援が必要と15時~翌10時まで活動。(広島県・岡山県)
- 自宅の片づけをしている住民やボランティアを対象に熱中対策を行った。(愛媛県・岡山県・広島県)
- 避難者に対し健康情報を聞き取り把握し、感染予防のための環境整備や健康管理を行った。(倉敷市・広島市)
- ライフラインの途絶、特に電気・上下水道の寸断で、人工透析患者や冷房の中断。断水が続き、トイレが使用できなくなりバケツ利用で対応した。また、給水車で屋上のタンクに組み上げ注入する作業を継続した。(北海道・広島県・愛媛県) 他

まとめ 聞き取り調査からの報告

- 非常用電源の使用方法を職員が理解してなかった。自家発電が機器のトラブルで約10時間停止した。
 - 多くのNPO・ボランティアが活動に入り、適切な時期に情報の錯綜などで活動ができず、支援の相談する余裕がなかった。また、地域の特性によりニーズが異なる。支援団体の連携を上手くいかずバラバラな支援を行っている。
 - 他職間で活動する場合、指揮命令系統を立ち上げることが重要
 - 避難訓練や地震への備えは想定していた、水害は全く想定外であった。
 - 紙カルテの運用訓練を行っていた、停電の際訓練していたよかった。
 - 看護師は外来を担当数名を除き、休職や退職となった。
 - 看護職員の多くも被災したが、被害の少なかった職員で勤務調整して、入院を継続した。
- (報告書より一部抜粋)

おわりに

- 防災や地震訓練以外に、避難訓練やあらゆる災害を想定した訓練が求められる。
 - 平時から災害時の協力体制を整える。チーム間での情報共有や顔の見える関係性作りが大切である。
- 災害看護学会として初動調査に入り多くの情報を得、地域との繋がりができた。今回の繋がりが中長期の復興に向け、地域住民と継続した繋がりになることが重要と考える。